

📍リサーチフォーカス一覧（事業推進担当者+平成 22 年度プロジェクト）

1. 言語接触とコンフリクト

工藤眞由美（文・教授）「コンフリクト・マネジメントの観点から見た言語接触のダイナミクス」

渋谷勝己（文・教授）

2. 交錯するアートメディア

岡府寺 司（文・教授）「ヴィジュアル・アートにおけるグローバル・コンフリクトの研究」

三谷研爾（文・教授）「美的近代におけるローカリズムと反ローカリズム」

伊東信宏（文・教授）「音楽の生産・流通・消費におけるコンフリクト」

3. 横断するポピュラーカルチャー

富山一郎（文・教授）「ポピュラーカルチャーと社会的コンフリクトの総合的研究」

金水 敏（文・教授）、辻 大介（人・准教授）

4. トランスナショナリティ

小泉潤二（人・教授、大阪大学理事・副学長）

中川 敏（人・教授）「諸価値のコンフリクトと妥協に関する民族誌的研究」

池田光穂（CSCD・教授）「在日外国人支援の現場における参与実践」

志水宏吉（人・教授）『「往還する人々」の教育戦略：異文化間コンフリクトの視点から」

5. グローバリゼーション

ヴォルフガング・シュヴェントカー（人・教授）「グローバル・コンフリクトと知識人」

友枝敏雄（人・教授）、牟田和恵（人・教授）「排外的ナショナリズムと暴力に関するジェンダー

パースペクティブによる研究：コンフリクトの回避と解決のために」

6. 人道と人権

中村安秀（人・教授）「在日外国人を取り巻くコンフリクトを緩和するシステム構築」

平沢安政（人・教授）「人権の国際基準とアジア的価値をめぐるコンフリクトの研究」

7. 人間の安全保障

栗本英世（人・教授）、渥美公秀（人・教授）

8. コンフリクトと価値

鷺田清一（総長）、中岡成文（文・教授）

小林傳司（CSCD・教授）「移民問題についての哲学的研究：多文化精神医学の可能性と限界」

📍特任スタッフ他+平成 22 年度プロジェクト

特任助教

赤尾光春「シオニズムの考古学：現代ユダヤ社会におけるディアスポラとイスラエルの相克」

池上裕子「戦後日本美術の越境性と文化コンフリクト」

古川岳志（「横断するポピュラーカルチャー」担当）

久保田美生（メディアラボ担当）

酒井朋子（教育研究高度化支援担当）

特任研究員

工藤晶人「近代植民地都市の比較研究」

田沼幸子「映像作成による人文学国際研究教育の可能性」、「民族誌 co-labo100」

藤原久仁子「地中海地域におけるトランスナショナリティに関する人文学的研究」

吉澤弥生「文化芸術の公共性と社会的コンフリクトの研究」

日本学術振興会特別研究員

伊東未来「差異の承認・包摂をもとにした社会構築の人類学的研究」



大阪大学大学院人間科学研究科内グローバル COE 事務局

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2

Tel 06-6879-4046 Fax 06-6879-4049

gcoejimu@hus.osaka-u.ac.jp <http://gcoe.hus.osaka-u.ac.jp>

拠点リーダー 小泉潤二（人・教授、大阪大学理事・副学長）

拠点サブリーダー 栗本英世（人・教授）

事業推進拠点

大阪大学大学院人間科学研究科

大阪大学大学院文学研究科

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）

大阪大学グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）

はじめに — コンフリクトの人文学に向けて

小泉 潤二

大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文学国際研究教育拠点」拠点リーダー
大阪大学大学院人間科学研究科教授（大阪大学理事・副学長）

◎コンフリクトという問題

急速にグローバル化が進む現代社会では、社会的文化的コンフリクト、つまり集団間の対立や紛争、摩擦や葛藤、緊張や矛盾や軋轢が、顕著に、またきわめて広範に現れている。そもそもコンフリクトは、私たちが「社会」として捉えるものの本質的構成要素である、という醒めた言い方さえできる。少なくとも経験的には、あらゆるコンフリクトから自由な、軋轢とは無縁な社会や集団というものはずも存在しない。一方コンフリクトの問題は常に深刻である。

◎コンフリクトの理解

コンフリクトは多種多様なかたちをとり、そこに生きる人々が多種多様なかたちで経験する。こうした問題に対し、法則性や普遍性を性急に見いだそうとすれば、人間の経験や思索や行動の世界を矮小化する還元論的な理解に導かれやすい。コンフリクトは、その内側に置かれている人々の思考や感情や行為によりもたらされるものであるという事実は、強調してもしすぎることはない。本プログラムが「人文学」という名前を冠している理由はここにある。

◎コンフリクトへの経験的・現実的アプローチ

私たちのグローバルCOEプログラムでは、まず個別のコンフリクトを現実と実態に基づいて深く綿密に理解すること、演繹的なアプローチに対比されるものとしての経験的なアプローチを探ることを重視している。コンフリクトの状況について個々の事例ごとに調査し検証し、世界各地で生きる人々の視点と実践をいわば「現在進行形」として捉え、流動的な現実を動的に把握することを目指している。

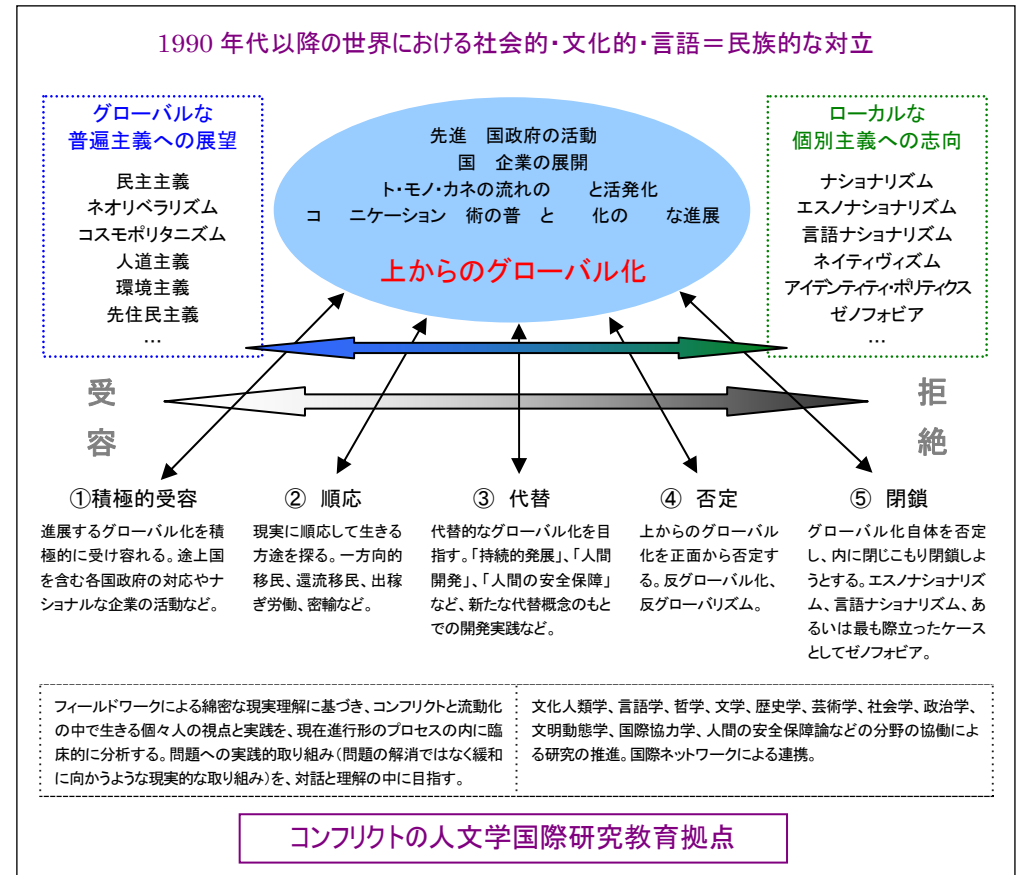
同時に、この問題に何らかのかたちで対処するための実際的な方策について探求することも課題である。経済の発展、政治の安定、文化の創造、科学技術の展開も含めて、私たちのあらゆる活動の基盤、そもそも人が生きるということの足元には、究極的には「価値」の違いに由来するコンフリクトの問題がある。問題の完全解決や解消はあり得ない。可能なのは実践的取り組みによる問題の軽減あるいは緩和を目指すアプローチであり、対話、交渉あるいは理解である。

そうした理解のためには、分析概念の精緻化や構造要因の分析（つまり「解釈」）と同時に、理解が単純で固定的な分析概念に還元されることがないように、分析とデータとの間の柔軟で恒常的なフィードバックが起こることが必要である。

◎本プログラムの構成

2002年から5年間にわたって進められた21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」を継承する本グローバルCOEプログラムは、とくに「グローバルな次元でのコンフリクト」の問題に焦点を合わせている。人類学の諸分野を中心に、言語学、哲学、芸術学のほか、文学、歴史学、社会思想史、現代文明学、社会学、科学技術社会論など人文社会科学の諸分野、また国際協力学、多文化教育学、臨床教育学、人間開発学、地域共生論、人間の安全保障論などの実践分野が協働し、国際的に学際的な研究教育の拠点を形成して若手研究者を養成することを目指している。人間科学研究科を中核拠点とし、文学研究科、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）から合計26名の教員が事業推進担当者となり、8つの問題領域に焦点を合わせて、学内外の多くの連携研究者とともに多数の研究プロジェクトをすすめている。

本プログラムの理論枠組み



◎これまでの主要な活動

1. 国際シンポジウムの開催
「開発を問い直す一脱開発、グローバル化と人間の条件」（2009.4.7-10）
「移動とアイデンティティ」（2008.8.24-26）
「コンフリクトと協力」（2008.7.11）ほか
2. セミナーの開催（2007-2008年度計30回）
3. ワークショップの開催
4. 大学院生調査研究助成、国際研究集会参加支援
5. ジャーナル『コンフリクトの人文学』発行
6. メールマガジンの発行（隔週）

